



日本形成外科手術手技学会

News Letter

第13号 2018年4月1日発行

発行 日本形成外科手術手技学会 事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12

新宿ラムダックスビル (株)春恒社内

TEL: 03-5291-6231

FAX: 03-5291-2176

— 目次 —

- * 理事長からのご挨拶
- * 第23回 日本形成外科手術手技学会 印象記
- * 第24回 日本形成外科手術手技学会 お知らせ

理事長からのご挨拶

日本形成外科手術手技学会

理事長 上田 晃一

本学会は「形成外科内視鏡手術手技研究会」という名称で1996年に東邦大学で丸山 優会長のもとで第1回が開催され、その後、「形成外科内視鏡・手術手技研究会」、「形成外科手術手技研究会」へと変更され、2011年に学会に昇格いたしました。今回開催されました兵庫医科大学、垣淵正男会長の学会が第23回となり、歴史の重みを痛感いたします。

この学会の特徴は一貫して「手術手技」にスポットがあてられており、各演題の討論時間が多くとられています。総会では認められない1例報告も口演として認められて、1例1例を掘り下げて十分討論できるような以前の研究会の性格を受け継いでいる所がとても興味深いと思います。

朝戸理事長の時本学会の活性化のために、私は「企画委員長」として、「症例検討セッション」「手術手技ビデオセッション」の開催を提案させていただきました。さっそく垣淵会長に持ちかけたところ、時間の余裕もないにもかかわらず、快く引き受けていただきました。今回それらのセッションがとても盛況で、好評だったのが幸いです。

今回新しい企画委員長として、聖マリアンナ医科大学の梶川明義教授に企画のご提案をお願いしたいと考えております。

ひき続き若手医師の入会の増加、学会の活性化について努力して行きたいと考えておりますので、みなさまのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2018年3月末日

第 23 回 日本形成外科手術手技学会 印象記

会長 垣淵正男（兵庫医科大学形成外科）

第 23 回日本形成外科手術手技学会を兵庫医科大学形成外科学教室が担当させていただき、会員の皆様に心より御礼申し上げます。

平成 30 年 2 月 10 日（土）に、兵庫県尼崎市の都ホテルニューアルカイクにおきまして、約 250 名の参加登録をいただき、盛会裏に終えることができましたことを報告させていただきます。

今回のテーマは「進化する手術」とさせていただきましたが、様々な要素を取り入れながら生き物のように進化する手術手技の数々を、ビデオ講演 8 題、症例検討 8 題、一般演題 57 題、ポスター 17 題の計 90 演題でご発表いただき心より感謝申し上げます。

特別講演には、大阪大学国際医工情報センター臨床神経医工学寄附研究部門の平田雅之先生をお招きし、「体内埋込型ブレイン・マシン・インターフェース：電子回路内蔵頭部ケーシングによる整容学的工夫」のタイトルで、脳の表面に置いた電極シートを用いて疾病や外傷によって障害された四肢の運動やコミュニケーションを可能にするという、夢のような技術のご研究を紹介していただきました。ご講演終了後もフロアでの質問が途切れず、お控室に場所を移してご対応いただく程の反響がありました。

目玉企画のひとつでありました「ビデオ講演」は、経験豊富な術者の手技をじっくりと見せていただく機会とあって、通常は閑散としがちな午後の後半のプログラムであったにも関わらず、多くの聴衆を集めて活発な質疑が行われました。手術手技はやはり動画が理解しやすいということを再認識いたしました。

もうひとつの目玉の「症例検討」では、治療方針の決定が難しい症例について、全国からお集まりいただいた先生方による活発な議論が交わされ、当初の狙い通りに日本形成外科学会全体がひとつの医局となったような企画となりました。

ランチョンセミナーでは、「マイクロサージャリーの進化・深化」を株式会社メディカルユアードエイ様と、「下肢救済手術の進化」を科研製薬株式会社様と共催させていただきました。今回のテーマに相応しい内容を関西形成外科学会が誇る気鋭の先生お二人にご講演いただき、いずれの会場もたいへん盛況でした。

前回の大会が初めての試みとして企画されました参加者懇親会「寄り道」を、今回も踏襲させていただきましたが、学会場ではお話をする機会がなかった先生方どうしの交流の場にもなったように思います。

第 1 回日本形成外科学会小児形成外科分野指導医認定試験や各種委員会も滞りなく執り行われ、日本形成外科学会ならびに関連学会のお役にも立てましたことも嬉しく思います。

また、昨今の厳しい情勢の中、企業展示を 11 社から、抄録集広告を 9 社からご協力もいただきましたことを感謝申し上げます。

一年の中で最も寒い時期にご参加していただいた皆様の、今後の診療や研究の糧となるプログラム、よき思い出となるようなおもてなしを心がけたつもりですが、準備期間中や学会当日の運営に不手際や行き届かない点もあり、ご迷惑やご不便もおかけしました。当教室が初めて担当させていただいた全国学会を成功させるべく、献身的な働きをしてくれました事務局長をはじめとする教室員、同門会員の努力に免じて、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

日本形成外科手術手技学会の今後益々の発展をお祈りいたします。

第 24 回日本形成外科手術手技学会 お知らせ

会長 前川二郎（横浜市立大学形成外科教授）

この度、第 24 回日本形成外科手術手技学会を主催させていただきます横浜市立大学形成外科の前川です。会期は平成 31 年 2 月 23 日（土曜日）、会場はパシフィコ横浜です。本学会は四半世紀近い歴史を持っており、当教室は鳥飼前教授時代に第 11 回を担当させて頂いたので、今回は 2 回目の担当となります。第 11 回の際は講演会場が一つで、学会も学会場も規模は小さなものでしたが、その後、学会の規模が大きく発展して参りました。今回は多くの方に参加し、発表して頂けるよう講演会場を 3 つ用意しています。

さて、学会のテーマですが、「和の手術手技」といたしました。日本的な匠の「和」の手術手技と、協調性が必要なチームの「和」としての手術手技について様々な施設の特徴的な手術手技をビデオなどで討論していきたいと考えています。例えば小耳症手術では肋軟骨を採取するチーム、フレームワークをつくるチームなど、また頭頸部再建では皮弁採取、皮弁のセッティング、血管吻合など、形成外科手術ではチームで行う手術が多く、チームワークが良い施設では手術時間が短く、手術内容もリファインされ結果も良いものです。チームワークと言えば、ピョンチャン冬季オリンピックにおいて女子団体パシュートで日本チームが金メダルを取りましたが、これは正に練習に練習を重ねたチームワークの勝利でした。より良い手術を行うためにどのようなチームを作り上げて手術を行っているのか、今回の集会を通じてチーム作りの重要性を感じ取って頂ければ幸いです。

また、若手の医師の方にも参加し発表して頂けるような、日常診療で治療する頻度が多い疾患の手術手技についての企画を考えています。会場はみなとみらい線みなとみらい駅から雨に濡れずに行くことができ、また、みなとみらい線沿線には横浜大榎橋や横浜中華街、赤レンガ倉庫があり、最も横浜らしい場所です。皆様のお時間が許すかぎり会場周辺の施設を楽しんで戴けるとお思いますので、多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

これから教室員一同、皆様のお役に立つことができるような学術集会になるよう準備を進めて参りますので、どうかご支援宜しくお願い申し上げます。

次年度以降の学会開催について

第 25 回日本形成外科手術手技学会

会 長：深水秀一（浜松医科大学形成外科）

日 程：2020 年 2 月 8 日（土）

開催地：アクトシティ浜松コンベンションセンター

第 26 回日本形成外科手術手技学会

会 長：岡崎 睦（東京大学）

日 程：2021 年 2 月頃

開催地：東京